

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第49号

2021(令和3)年1月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

固より一様ならず

— 綿の栽培株数と収量について —

H. A. M. A. 木綿庵(ゆうあん)が活動を開始して13年目の記念日を迎えました。当庵の設立は平成20年(2008)1月26日。不登校やひきこもり、うつなど心がうつむきがちな人たちが少しでも心やすらぐ居場所でありたいと、「居場所づくり」をめざし、活動を開始しました。拠点は畑。野菜や綿の栽培、綿の加工を通して、人や自然、社会やモノと関わる喜び、明日を楽しみに過ごす喜びを共にしたいと念じています。

さて、このたび設立13周年を記念してH. A. M. A. 木綿庵公式ホームページ内に、「月刊機関誌うひはたぶみ」のバックナンバー閲覧サイトを開設することにしました。本紙を手にしてくださった方から、バックナンバーについての問い合わせをいただいたからです。当分は毎月6ヶ月分ずつアップしていく予定で、現時点では第18号(2018. 平成30年. 6. 26号)まで閲覧が可能です。

さて、昨年末の12月27日に1号畑の綿木引きを行い、2020年産の綿の栽培をすべて終了しました。裏面に収量を掲載していますのでご覧ください。今季は品種毎の収量を中心とした報告にしましたが、例年との比較ができるように従来の書式に倣った報告も併せて掲載しました。するとおもしろいことに気づきました。たとえば和綿の白の収量を比較してみますと、2017年産は107株5,090g(第12号参照)。2018年産は181株8,802g(第25号参照)。2019年産は120株7,033g(第37号参照)。2020年産は445株16,134gです。1株当たりの収量に換算しますと2017年は47.57g。2018年は48.63g。2019年は58.61g。2020年は36.26gとなります。2019年は天候に恵まれ大豊作の年でした。それでは、2020年はどうでしょう。天候的には比較的めぐまれた方であったにもかかわらず、過去最低の収量です。理由ははっきりしています。植え付けた株数が多すぎたために、収穫作業が追いつかなかった、ということです。綿の収穫はお天気との勝負でもあります。できるだけ雨に当たらないように、吹いた(実がはじけた)綿から、天気の良い日の午後に順次摘み採っていく必要があります。タイミングを逸して風雨に長時間さらされた実綿は、確実に劣化します。さらに地面に落ちて泥のついた実綿は「落ち綿」となり価値は大きく下がります。要は収穫時にどれだけの労力を投入できるかも含めて作付け計画を立てる必要がある、ということです。今後の課題です。

綿の栽培密度については、栽培方法とも深くかかわってきますので一概には何とも言えません。2020年は1号、5号、6号、7号、8号の各畑で栽培し、綿畝面積でいえばすべて合わせて1反(300坪)ほどです。つまり1反で和綿の白445本+和綿の茶71本+洋綿36本で、計552本です。

ちなみに、大正8年に発行された農業経営研究会『日本棉作要説』(1919年 蚕業新報社)には「各地の便宜慣習及び地質等によりて粗密あり多寡ありて固より一様ならず」と断り書きをした上で、大和においては「中溝一尺八寸大溝の間は五寸一坪に棉八十四五本」(315頁)とあります。この要領に従えば1反で約2万5千本となります。右の写真は昭和25年(1950)発行の冊子『岩波写真文庫1 木綿』に掲載されている綿花収穫の様子です。江戸時代に刊行された『綿圃要務』に記されている栽培法に近く、上記の『日本棉作要説』にも通じます。今後の課題です。



かつての和綿栽培の様子

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和2年12月24日～令和3年1月23日)

神奈川県2、石川県1、奈良県1、広島県1

【H. A. M. A. 木綿庵】(令和2年12月24日～令和3年1月23日)

メールを含む各種相談件数4、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数8件13名



《綿の収穫量の記録 2020年産》 実綿収穫総量=22,399g

昨年末、令和2年12月27日に年末恒例の1号畑の「綿木引き」を行い、今季の綿の栽培を終了しました。今回は天理参考館員の中谷様と知人の方が応援に来てくださり、1時間ほどで終わることができました。

2020年産(令和2年)の綿の総収穫量(実綿)は下記の通りです。今季は1号畑のほかに5号畑、6号畑、7号畑、8号畑でも栽培に取り組みました。1号畑では和綿の白と洋綿の白。5号畑は和綿の白。6号畑は和綿の白と洋綿の緑。7号畑は和綿の白。8号畑は和綿の茶と洋綿の茶です。

なお、将来に向けて品種改良も視野に入れ、各地のご協力をいただき和綿の白は8種類(産地)の種を栽培しました。各種の株の本数と収穫量は以下の通りです。()は前年栽培地。

◇和綿

1、大和山辺綿：赤木(天理市)	1号35本、5号32本、6号27本、7号12本=106本	3、250g
2、大和山辺綿：青木(天理市)	1号40本、5号32本、6号27本、7号11本=110本	3、158g
3、河内綿：千塚(大阪府八尾市、八尾市立歴史民俗資料館)	7号11本=11本	426g
4、河内綿：神立(大阪府八尾市)	1号4本、6号14本、7号12本=30本	852g
5、河内綿：石切(大阪府東大阪市)	6号15本、7号11本=26本	582g
6、伯州綿：境港(鳥取県境港市)	6号25本、7号12本=37本	1,808g
7、伯州綿：伊東(静岡県伊東市)	1号9本、5号7本、6号19本、7号11本=46本	1,674g
8、真岡綿：真岡(栃木県真岡市)	5号41本、6号27本、7号11本=79本	2,192g
9、茶綿(天理市) 種のルーツ：福島県→東京都→天理	8号71本=71本	2,868g
※赤木、青木混合		952g
赤木、青木混合	コットンボール400個、実綿換算×3,1=1,240	1,240g

◇洋綿

10、山辺アブランド(天理市)	※見学者用の未収穫綿は除く。1号30本=30本	1,885g
	コットンボール300個、実綿換算×4.5=1,350	1,350g
11、茶綿(天理市)	8号3本 ※播種用にのみ収穫	76g
12、緑綿(大分県大分市)	6号3本 ※播種用にのみ収穫	86g

総合計 22,399g

ちなみに、例年の報告書式に倣えば、以下の通りとなります。

◇和綿：白(445株) 実綿 14,894g+コットンボール約400個(実綿換算1,240g)	=実綿 16,134g
◇和綿：茶(71株) 実綿 2,868g	=実綿 2,868g
◇洋綿：白(30株) 実綿 1,885g+コットンボール約300個(実綿換算1,350g)	=実綿 3,235g
◇洋綿：茶(3株) 実綿 76g 播種用にのみ栽培収穫	=実綿 76g
◇洋綿：緑(3株) 実綿 86g 播種用にのみ栽培収穫	=実綿 86g

写真左：1号畑の綿木を抜き始めたところ。中：綿木をすべて抜き終えた状態。右：9号畑に移動しての次の植え付け準備。



【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成30年, 2018年産。丹羽正行氏による打ち綿)
12月24日～1月23日(作業実日数21日) 糸の総量57.0g (15.2匁) 総時間257分(4時間17分)
※1分間≒0.222g 1時間≒13.3g (3.5匁)

【研修等の記録】

- 令和3年01月05日 奈良県吉野郡吉野町の山本きのご園様より廃菌床を分けていただく(軽トラ1台分)。
- 令和3年01月06日 「細見美術館」(京都市左京区岡崎)にて特別展「吉岡幸雄の仕事と蒐集」を鑑賞。